

英法 Legal Jargon の中世仏語起源について(1)

保谷一三

英法用語に出会うとき、どこことなく英語らしさが感じられない。フランス語を知っていた場合、形態・用法は必ずしも純粋ではないが、どうやらこれらは大部分フランス語だと感じる。

本研究ではJohn Pritchard 著 *The Penguin Guide to the Law*. second edition 1985の附録の一つである Legal Jargon: An A-Z Guideから単純語(ただし合成語も含む。)133語を取り出し、今回分として、はじめの66語について何語のどういう側面に起源を有するかを調べた。結果として Anglo-French が従来明かされた以上に語彙に関与していることが分かった。角括弧でくつた訳語については有斐閣版英米法辞典(初版22刷昭和62年)を参照した。

キーワード: 英法、Legal Jargon、中世仏語

1. abate 「(不法妨害を)自力除去する。」「(不特定遺贈を按分的に)減額する。」

ME abaten. もとの OF abatre であるが、Grei-mas¹⁾によれば「叩く」の意味しかない。StoneとRothwell²⁾によると、Anglo-Norman(以後Anglo-French, 略語AFとする。)にabatreがあり、その意味は‘to do away with’、‘to diminish’で、この場合に適する。OEDによれば‘to do away with’の意味は1270年ころ初出、法律用語となったのは1297年である。

‘to diminish’の意味は1366年初出で、それ以降に法律用語になった。1270年はEdward I 世、1366年はEdward III世の治世で、その年鑑*Year Books*はAFで書かれている状況から、AF由来とできそうである。

2. action 「訴、(民事)訴訟」

ME accioun. もとのOFはactionである。さらにもとのL actioはすでに「訴」の意を持っていた。*lexis*³⁾によると

《exercice d'un droit en justice》の意味で1283年にOFに初出している。一方英法に入ったのは1330年で、「訴」の意味が最初である。しかし AF も無視できない。StoneとRothwellによると、AF accion, -i(o)un, tionは‘the right to bring an action’の意をもち、語形、内容とも英語に一番近いからである。

3. administrator, -trix 「遺産管理人」

ラテン語administrator のままである。OEDによると、英語ではこの意味で1514年に初出している。

Dauzat⁴⁾によれば12世紀にOFとなり、spécialisé dès le XVII^e s. である。従って英語に後れている。StoneとRothwellによると、AF administrour, -strere, aministrour ‘administrator’があり、適当と思われる例文の記載もある。⁵⁾

4. affidavit 「宣誓供述書」

ラテン語で‘has stated on faith’の意である。OEDによれば英法では1622年初出である。フランス語では1773年初出⁶⁾である。従ってAF文献に使われていた可

能性があるが、StoneとRothwellでは省かれているはずである。

5. annul 「無効とする」

ME annullen. もとのOF annuller. *lexis*によると、OFの初出は1280年。OEDによれば‘invalidate’の意味は1425年初出である。StoneとRothwellによればAF annuler ‘to annul’がある。

6. antenuptial 「婚姻前の」

接頭語ante-のついた形のOFはGreimas等に記載がない。OEDによるとnuptialは1490年に英語に初出している。*lexis*によるとOFでは1200年ころである。AFについてはStoneとRothwellに記載がない。いずれにしても1490年以降の造語ということになる。

7. arraign 「起訴認否の手続をする」

ME arreinen. Greimasによると、もとのOF araisnier, araisonner は 1080 年初出である。《appeler en justice, accuser》の意がある。英語では‘To call upon one to answer for himself on a criminal charge’の意味で1400年以前に初出している。中間を埋めるものとして、AF arener, ..., arrainer, -en(n)er ‘to arraign’がある。StoneとRothwellの例文も適当である。⁷⁾

8. assault 「暴行(未遂)、暴行の脅迫」

ME assault. Greimasによれば、もとのOFはas-(s)aut, 初出は1080年である。OEDによれば、英語で‘An onset or rush upon any one with hostile intent’の意で1297年初出である。StoneとRothwellによると、AFにassault, -aut ‘attack’があり、語形から言えばAF由来である。

9. attestation 「(文書の真正の)証明」

ME attestation. OFと同形。さらにもとはラテン語の attestatio である。GreimasによればOFは1200年ころ初出である。英語はOEDによれば1598年初出。AFについてはStoneとRothwellに記載がない。

10. attorney 「(昔の)事務弁護士」

現在はsolicitor。MEはattourney。もとのOFはGreimasによるとatornéで1217年初出。過去分詞で‘assigned’の意である。OEDによれば‘one duly appointed... to act for another in business and legal matters’の意は1292年にフランス語文献に初出し、1466年に英語文献に初出している。この174年を埋める例文がStoneとRothwellによって採録されている。⁸⁾ AF attourné, atto(u)-, aturné ‘deputy, lieutenant, (law) attorney’である。

11. automatism 「無意識的行為」

OEDによれば、もとはF automatismeである。Dauzatによると、Fは1757年までに初出している。英語では‘involuntary action’の意で1837年に初出している。

12. autrefois 「前の」

これは明らかにフランス語である。Webster’s Third New International DictionaryはAFとしている。Dauzatによると、OF altrefeizは1160年初出である。StoneとRothwellによるとautrefois, -fe(t)z, ... -foiz, -foi(t)z, ... ‘again, once more’ ‘at another time, on a future occasion’ ‘the next time’ ‘previously’の意がある。

13. bailiff 「執行吏」

sheriff(執行官)の部下である。OEDによればME baillifはOF baillifに由来する。この形はPope⁹⁾によれば形容詞*bajulivumがOFに進化した形である。文法上はOF文法では単数斜格である(単数主格はbaillifs>baillis)。GreimasによればOF baillifは《gouverneur, bailli, gardien》の意で、*lexis*によれば12世紀末から法律用語になっている。OEDによると、英語では‘administrator’の意で1297年初出、‘an officer of justice under a sheriff’の意で1377年初出である。AFでは、StoneとRothwellによると、baillif, bail-, bal(l)-...があり、先ず‘baillif’の意を表わす。

14. bailment 「寄託」：駅に荷物を預けるなど。

OEDによれば、もとはOF *baillement*である。動詞 *bailier* 'to bail, give, deliver' から派生した。これは、'delivery in trust, upon a contract expressed or implied' の意で、1602年に英語に初出している。しかし、GreimasなどのOF辞典には *baillement* の記載はない。StoneとRothwellによればAFには *baillement* がある。AF由来の可能性がつよい。

15. bankruptcy「破産」：債権者のために債務者の資産を裁判所が引き継ぐこと。

このFは *banqueroute* で、Dauzatによれば1466年初出である。Greimas に従い、1350年までをOFとするとMFとなる。FのもとはOI *banca rotta* 'banc rompu' で、債権者が帳場を壊したことに困むという。OEDによると、bankrupting, bankruptcy, bankruptcy, bankrupt+cyの形に落付いた。AFも関係はなさそうである。

16. battery「暴行」：傷害を与えるに至らなかった単純暴行も含む。

GreimasによればOF *baterie* 'action de battre' は1204年初出である。OEDによれば英法で 'an unlawful attack upon another by beating or wounding' の意は1531年初出である。StoneとRothwellによればAFにも *baterie* 'assault' がある。

17. bench「裁判官の全体」

OEDによれば、もとはGermanic **banki* 'seat' で、これはOE *benc* を経てME *bench* になった。しかし、'the seat where the judges sit in court' の意ではL *bancum*, AF *banc*, *baunc* を翻訳したのだという。StoneとRothwellもAF *banc* の裁判所関係の用法を記載している。AFで *benche* もある。

18. beneficiary「受益者」：信託受益者、遺産の受取人。

OEDによれば教会ラテン語 *beneficiarius* に由来する。Fは、Dauzatによると、*beneficiaire* で1609年初

出である。英語は、OEDによると、'one who receives benefits' の意で1622年に初出している。Fの方が13年早い。StoneとRothwellによるとAFは *beneficier* で英語から遠くなる。

19. bequeath「(動産を)遺贈する」

ME *bequethan*, OE *becwethan* である。OEの *-cwethan* は 'to say' の意。OEDによると、'To say (a thing) away' を基本義として、'To leave by will' の意は1066年初出である。例文は最後のアングロサクソン王 Edward the Confessor の *Charters* から取っている。¹⁰⁾

20. certiorari「(事件)移送命令」

Lewisの *A Latin Dictionary* (以下 Lewis と略す) によれば、少なくとも *certiorare* 'to inform' はローマ法の用語である。OEDによると、上級裁判所から下級裁判所に対して出される文書の名として1523年初出である。

21. champerty「(利益分配の特約のある)訴訟援助」：違法である。

ME *champartie*。Greimasによると、OF *cham-part* は収穫のうち地主・国王の取り分を表わす。英法の *champerty* はこれとは違った意味であり、1329年にラテン語文献の中に、1467年に英語文献に初出する。英仏の隙間を埋めるものはAFで、StoneとRothwellによると、*champart* 'champart' と *champartie* 'champerty' がそろっている。

22. charity「慈善団体」

ME *charite*、もとはOF *charité*。OFは《*amour du prochain*》の意で900年ころ初出。AFにも *charité*, *-ee*, *carité*, *cherité* がある。OEDによれば *almsgiving* の意は1154年初出だが、「慈善団体」の意は1697年初出である。慈善行為が組織化されるまでに543年かかっていることになるが、語形的にはAFがMEに近い。

23. chattels 「動産」

GreimasによるとOF *chatel, chael*、そのもとはML *capitale*(中性名詞)、さらにもとはL *capitale*(中性形容詞)。StoneとRothwellによるとAFにも *chatel, -eil, ...*があり、*pl. chateals, -eaux, -el(e)s, ...*である。OEDによると、‘property’の意味は1225年初出、‘a movable possession’の意味は1549年初出である。

24. codification 「法典化」：同一題目の全法を内容変更なしにまとめること。

*lexis*によると、F *codification*は1819年初出である。OEDによると、英語で*codification*は1817年で、*prob. from mod. F*としているが、英語の方が2年早くなる。

25. commorientes 「同一事故死亡者」：同一事故によって死亡し、その死亡時の前後の不明な二人以上の者。

ラテン語であり、古くから存在している語である。1925年に英法ではLaw of Property Act, s.184により、年長順に死んだことに定めた。¹¹⁾

26. complaint 「(治安判事に対する)申立、告訴、告訴状」

ME *compleynte*、もとのOFは*complaint*と*complainte*。OFは1160年又は1175年初出で、《*plainte en justice*》の意である。OEDによると、‘The act of complaining’は1384年初出で、「申立」の意は1413年初出である。StoneとRothwellによると、AFにも*complaint*がある。

27. condonation 「宥恕」：夫妻の一方が相手のmatrimonial misconductをゆるすこと。

Greimasによると、*condonation*は1160年の初出である。OEDはL *condonation-em*に由来するとしているが、ラテン語にすでに‘to remit an offense’の意味があるからであろう。英語で「宥恕」の意は1788-91年に初出している。近代概念である。

28. consideration 「約因、対価」：契約上の債務の対価。

ME *consideracioun*。もとはOF *consideration*。*lexis*によると12世紀末の初出である。OEDによると、英語では1386年ころ初出、英法で‘anything regarded as recompense or equivalent for what one does or undertakes for another’s benefit’の意で1530年に初出している。AFにも*consideration*があるが、「対価」のような意はない。

29. conversion 「(動産の)横領」

ME *convercioun*。Greimasによると、*conversion*の初出は1180年で‘*changement*’の意である。OEDによれば、英語では1340年に初出しているが、「改宗」の意で、「横領」の意では1615年の初出である。この場合*trover and conversion*という句があることから、フランス語であることははっきりしている。AFにも*conversion*があるが、主として「改宗」の意である。

30. conveyance 「不動産譲渡文書」

Greimasなどのフランス語辞典にはこの語の記載がない。しかしStoneとRothwellによると、AFに*conveiance, conveyance*がある。OEDによると‘conveying’の意で1503-4年初出、英法の‘The transference of property (esp. real property) from one person to another by any lawful act’の意で1534年初出である。語形からAF由来は明らかである。

31. costs *pl.* 「訴訟費用」

*lexis*によると、名詞*coût*は1150年初出である。今は*dépense, frais*を使う。StoneとRothwellによると、AFにも*cust, -e, cost, coust (pl. couz, qouz)*がある。語形的にはAF由来といえる。OEDによれば、‘the price paid for a thing’の意で1300年までに初出、*pl.*で‘The expenses of litigation, prosecution, or other legal transaction’の意で1340年に初出している。

32. counterclaim「反訴」

接頭語counter-もclaimもフランス語である。Greimasによると、OF clamer《porter plainte》の意がある。名詞claim, clainの初出は1160年である。《plainte en justice》の意である。OEDによれば、英語では‘A claim set up against another’の意は1876年初出である。AFではclamur, -ourで、語形的にはAF由来ではない。

33. coverture「妻の地位又は身分」: 夫の庇護(cover)の下にあるから。

ME coverture。もとはOFである。OFの初出は1155年。OEDによると、英語では1225年までに初出し、bed-coverなどの意味を経て、‘The condition or position of a woman during her married life, when she is by law under the authority and protection of her husband’の意で1542-3年に初出している。

Stone と Rothwell によると、AFにも同じ意味がある。¹²⁾

34. crime「犯罪」: 公的性格をもつ点において不法行為(tort)と異なる。

ME crime。もとはOFである。OFの初出は1160年である。OEDによると、‘an act punishable by law, as being forbidden by statute or injurious to the public welfare’の意で1382年の初出である。StoneとRothwellによると、AFにもcrime ‘crime’がある。

35. curtesy「^{かん}鰥夫産」: 子をもつ寡男が死んだ妻の土地に対してもつ生涯権利。

ME curtesy。もとはOF cortoisieで、OFの初出は12世紀である。本来の《bonnes manières》の意のほかに《cadeau, service gracieux, intérêts》などの意がある。OEDによると、英法では‘A tenure by which a husband, after his wife’s death, holds certain kinds of property which she has inherited’の意で1523年に初出している。StoneとRothwellによると、AF curteisie, -a(i)sie, -esie, …があり、‘curtesy’の意も

¹³⁾
ある。

36. curtilage「住宅附属庭地」

ME curtilage。もとのOFはcortilで、Greimasによれば1150年の初出である。cortに指小辞-ilを加え《petite cour》《jardin》の意を持つ。OEDによれば、curtilageはAFに由来し、‘a small court, yard, garth or piece of ground attached to a dwelling-house’の意で、1206年ラテン語文献に初出、1292年にフランス語文献に初出、1330年ころ英語文献に初出している。AFには、StoneとRothwellによれば、curtillage, -ilage; co(u)rtillage, courtelageの形が存在し、‘curtilage’の意がある。¹⁴⁾

37. custom「慣習法」

ME custom。OEDによると、もとはOF custume, costumeである。OFは、Greimasによると、1080年の初出である。OFのもとはL consuetudin-em。OEDによると、英法では‘An established usage which by long continuance has acquired the force of a law or right’の意で1400年ころに初出している。AFはcustume, -ome, -(o)um; costume, -ume ‘custom, customary law’を持つ。¹⁵⁾語形的にはAF由来である。

38. deed「捺印証書」

ME dede。もとのOE dæd。OEDによれば、OEは825年初出である。英法では‘An instrument in writing... purporting to effect some legal disposition, and sealed and delivered by the disposing party or parties’の意で1300年ころ初出している。面白いことにAFにもdedeがあり、法律用語として‘deed’の意である。¹⁶⁾この経緯を知ることは重要である。

39. defendant「被告、被告人」

ME defendaunt。OEDによると、もとのOFはdeffendantである。しかし、Greimasには記載がないし、lexisにはdefendeurしかない。StoneとRothwellによると、AFにはdefendant, deff-; defendent, diffendauntがあ

り、法律用語としては‘defendant’の意である。¹⁷⁾

40. demise「物権の設定」：土地貸借権その他の不動産権を設定する行為。

ME demise. OEDによると、もとはAF *démise*である。StoneとRothwellによればAF *démise*, *dimise*は法律用語としてしては、‘divestment, demise’の意である。OEDによれば、英法では‘conveyance or transfer of an estate by will or lease’の意で1509-10年に初出している。

41. deposition「証言録取書、供述録取書」

ME *deposicioun*. OEDによると、もとはOF *deposition*. ‘The action of putting down’の意で1399年初出のあと、‘The giving of testimony upon oath in a court of law, or the testimony so given’の意では1494年に初出している。StoneとRothwellによると、AF *deposicioun*は‘deposition’の意で存在する。¹⁸⁾

なお、Lewisによれば、LにもI. Literally ‘laying down’のほかII. Tropically ‘testimony’の用法がある。

42. detainue「動産返還請求訴訟」：文字通りには動産横領訴訟。

ME *detenewe*. Greimasによれば、OFでは*detenue*で、1313年に‘action de détenir’の意で初出している。OEDによると、英法では‘unlawful detention of personal chattel belonging to another’の意で1467年に初出している。*lexis*によると、仏法では*détention*を使う。StoneとRothwellによると、AF *detenue*, *des-*; *detenu*, *-inue*が法律用語として‘detinue’の意で使われている。語形的にはAF由来である。

43. devise「不動産遺贈」：動産遺贈はbequestである。

Greimasによると、OF *devise*は《division》の意を基本とし、《testament, dernière volonté》の意もある。OEDによれば、英法では‘division of goods by testament’の意で1182年ラテン語文献に初出し、1542

-3年英語文献に初出している。OEDによると、*devise*と*bequest*の区別は近代のもので、1641年の例文では区別なく使用されていることがわかる。¹⁹⁾ StoneとRothwellによると、AF *devise*, *-is*; *divise*に‘division, bequest’の意がある。²⁰⁾

44. distrain「動産を差押え又は留置する」

OEDによれば、ME *distreyen*. もとはOF *destreindre*である。英法ではすべてのobligationについて1290年に初出、*arrears of rent*だけについて1768-74年に初出している。StoneとRothwellによると、AF *destreindre*, *dis-*が法律用語として‘to distrain’の意で用いられている。²¹⁾ 語形的にはAF由来である。なお仏法では*saisir*という。

45. distress「自教的動産差押」：債権者による。

ME *destresse*. OEDによれば、もとはOF *destrece*である。Greimasによれば、OFですでに《saisie (jurid.)》の意がある。OEDによれば、‘the legal seizure and detention of a chattel’の意で1290年ころに初出している。StoneとRothwellによると、AF *destresce*, *-ec(c)e*; *distresce*, *-esse*は法律用語で‘distress, distraint’の意をもつ。²²⁾ 語形的にはAF由来である。

46. domicile「住所」

Dauzatによると、*domicile*は1360年初出で、Greimasに従い1350年までをOFとすればMFとなる。OEDによると、英法で‘permanent residence, to which, if absent, he has the intention of returning’の意で1766-80年に初出している。

47. easement「地役権」：隣地に対してもつ通行権・採光権など。

OEDによると、もとはOF *aisement*である。Greimasによれば、《libre disposition, jouissance》の意がある。²³⁾ OEDによると、‘The right or privilege of using something not one’s own’の意で1463年に初出している。StoneとRothwellによると、AF *eisement*, *aise-*,

ease-に法律用語で‘easement’の意味があり、²⁴⁾ 語形的にAF由来である。

48. enactment「法の制定」

OEDによれば動詞enactはAnglo-Latin inactitäre (1437年初出)に関係のある語である。意味は‘enter among the *acta* or public records’である。StoneとRothwellによるとAF enacterは‘to record, register’の意である。‘The action of enacting (a law)’の意は1817年初出である。

49. encumbrance「負担」：貸借権、譲渡抵当権、不作為約款等がついていることをいう。

ME encumbrance. GreimasによるとOFには動詞encombrerしかない。OEDによれば、‘encumbered state’の意で1314年に初出し、‘burden’の意では1535年、英法で‘a burden on property: a claim, lien, liability attached to property, as a mortgage, a registered judgment, etc.’ (Wharton)の意で1626年までに初出している。StoneとRothwellによれば、AF encumbrance, -aunceで、語形的にはAF由来である。

50. engross「書写する」：清書する。

ME engrossen. OEDによれば、これに3系統があり、その第一がAF engrosser ‘to write in large letters’である。英法では‘to write in peculiar character appropriate to legal documents’の意で1304年にフランス語文献に初出している。²⁵⁾ StoneとRothwellによると、AF engrosser, -oserにも英法と同じ意味がある。lexisによれば仏法ではgrossoyerという。

51. equity「(集合的に)衡平法」：common lawと並ぶ英米判例法の大きな部門。

ME equite. OEDによれば、もとはOF equité。Greimasによれば1262年の初出である。英語では‘fairness’の意を経て、英法に入り、‘The recourse to general principles of justice ...to correct or supplement the the provisions of the law’の意で1591年

に初出している。StoneとRothwellによると、AF equité, -ee; ecquité, equietéがあり、MEはAFにより近い。

52. estate「不動産権」：貸借権など。

ME estat. OEDによれば、もとはOF estatで、OFは1175年の初出である。L stāreの名詞形なので a estat は《sans bouger, immobile》の意である。英法では‘The interest which any one has in lands, tenements, or any other effects’の意で1439年に初出している。StoneとRothwellによれば、AF estat, -aat, ...にも同じ意味がある。²⁶⁾ 従ってAF由来としてもよいと思われる。

53. estoppel「禁反言」

OEDによると、もとはOF estoupailで、‘bung or cork’の意である。英法では、‘An impediment ...to a right of action arising from a man’s own act, or where he is forbidden by law to speak against his own deed’の意で1531年に初出している。StoneとRothwellによれば、AF estuper, -oper, -opper, ..., -ouper; stopperに法律用語として‘estop’の意味がある。

54. execution「強制執行」

ME execucion. OEDによれば、もとはAF execuciounである。英法では「強制執行」の意で1292年にフランス語文献に初出している。英語文献初出は1503-4年である。StoneとRothwellによれば、AF execucion, -sion, -ssioun; ex(s)ecucioun, exicucion, ...は‘carrying out (of order, etc.)’の意をもっている。

55. executor, -trix「遺言執行者」

ME executour. OEDによると、もとはAF execu-tourである。1280年ころ初出している。StoneとRothwellによると、executour, -otour, -utere, -uto(u)rに法律用語として‘executor’の意がある。

56. extinguishment「消滅」：権利、義務、又は契約の消滅。

OEDによれば、extinguishはラテン語extinguereから-ereを取り、-ishを加えて造語した。これに-mentを加えて名詞ができた。初出は1503年で、英法では‘The putting an end to (a contract, right, etc.)’の意で1535年に初出している。

57. foreclosure 「受戻権喪失」

ME forclose. もとはOF forclore. GreimasによればOFは1120年初出。過去分詞forclosから名詞が作られている。Dauzatによるとフランス語ではforclusion. OEDによると、英法では‘The action of foreclosing (a mortgage) or depriving (a mortgagor) of the power of redeeming a mortgaged estate’の意で1728年に初出している。StoneとRothwellには名詞形の記載がない。

58. freehold 「自由保有権」：生涯保有の権利又はそれより大きな権利。

ME frehold. OEDによると、AF fraunc tenementから英訳した。英法では‘A tenure by which an estate is held in fee-simple, fee-tail, or for term of life’の意で1532年に初出している。

59. frustration 「契約目的の達成不能」：戦争など不可避の理由による。

ME frustracioun. OEDによれば、もとはラテン語frustration-emである。lexisによるとfrustrerは1300年ころ、frustrationは1549年、の初出である。英法では上の意味で1884年に初出している。AFにはfrusteter ‘frustrate, with-hold (?)’しかない。

60. goodwill 「暖簾、老舗料」

ME good will. OEDによれば、この句は‘virtuous disposition’の意で、Luke ii.14 bonae voluntatisの英訳に使用された。初出は893年ころである。英法では‘The privilege, granted by the seller of a business to the purchaser, of trading as his recognized successor’の意で1571年に初出している。

61. guarantor 「(借金の)保証人」

OEDによれば、guaranteeから-eeを取り去り、-orを加えて作った。1853年初出である。しかしStoneとRothwellによれば、AFにはgarantour, garraunt-があり、法律用語で‘warrantor’の意である。フランス語ではgarantである。

62. heirloom 「法定相続財産」

これは「相続人に帰属する道具」の意で、best bed, table, pot, pan, cartなど、遺言執行人に移転しないものを言う。F heir と E loomの合成語で、1424年初出である。

63. holograph 「自筆証書」

OEDによれば、F holographeに由来する。‘A letter or other document written wholly by the person in whose name it appears’の意で1623年に初出している。

64. illegal 「違法の、不法の」：刑法に触れる。

OEDによれば、もとはF illégal(14世紀)かmedieval Latin illegalisである。StoneとRothwellによると、AF legal ‘legal’は存在する。

65. immovables pl. 「土地家屋」

OEDによれば、今廃用のF immo(u)vableに由来する。PFはimmeubleである。英法では1588年に初出している。AFではimmeuble, inm-である。

66. inditement 「正式起訴状」

OEDによれば、もとはAF enditement, -dictment. StoneとRothwellによれば、AF enditement, (a)dite-, indict-で、最後の形は英語と一致する。英法では1303年初出である。(続く)

文 献

- 1) Greimas, A.J. : *Dictionnaire de l'ancien français jusqu'au milieu du XIVe siècle*, 2^e edition, revue et corrigée. Librairie Larousse. 1968.
- 2) Stone, L.W., and Rothwell, W.: *Anglo-Norman dictionary*. London. The Modern Humanities Research Association. 1977-.
- 3) *lexis*: dictionnaire de la langue française. Librairie Larousse. 1975.
- 4) Dauzat et al. : *Nouveau dictionnaire étymologique et historique*. Librairie Larousse. 1964.
- 5) par avys de mes executours, administours (sis) (私の遺言執行者、遺産管理人(ママ)の助言により) *Reg chich* ii 95. 1414年-1443年.
- 6) *lexis*による.
- 7) J.S. fust arrenné de ceste felonie devant justices (J.S.が裁判官の前で件の重罪について起訴事実の認否を問われたならば (?), *YBB* Ed II v103. 1307年-1327年.
- 8) de ceo qe eux ne voillent receivre attournez ... (彼等は弁護士を受容れる意思がないので) *Const Docs* 15. 1307年-1485年.
- 9) Pope, M.K.: *From Latin to modern French*. Manchester U.P. Reprinted 1973, § 782.
- 10) Swa full fre and swa forth swa he it sainte Petre bequath(自由意志により聖ペテロに遺贈した限りについて) *Chart. Eadweard in Cod. Dipl. IV*. 191 1066年.
- 11) 英米法辞典(有斐閣)昭和62年1月30日初版第22刷による.
- 12) cel agrement fut durant la c.(この合意は妻である間のものであった) *YBB* Ed II xvii 168. 1307-1327年.
- 13) William... fut baron Amys et survescit et tynt par la c.d' Engleterre (W.は A.の夫で妻に先立たれ英国のc.により保有した。) *YBB* Ed II xxii 37. 1307年-1327年.
- 14) ...fere c.et gardyn de la commune a sa court joynaunt(自分の庭に隣接して部落の庭地を作る...) *YBB* Ed II ii 38. 1307年-1327年.
- 15) Nous voloms... qe cest otrei... ne soit tret en c. en tens a venir(この合意が将来慣習とならないよう 我々は望む) *Parl Writs* 369. 年代不詳.
- 16) Nota en un d.(ある捺印証書の中で述べた) *YBB* Ed II vii 11. 1307年-1327年.
- 17) jamés ne convendreit a la partie d. avower (被告側が罪状を認めることは絶対に不必要だろう) *YBB* Ed II x239. 1307年-1327年.
- 18) le bref s'abati par d. de un Abbe(小勅書は一人の僧院長の証言録取書により無効となった) *YBB* Ed II xx97. 1307年-1327年.
- 19) ...a man... bequeatheth his goods or his lands ... (物品や土地を遺贈する...) *Termes de La Ley* (法)114. 1641年.
- 20) El est morte et en terre mise, De sa terre m'ad fait d.(彼女は死んで土中に葬られたが、所有の土地は 私に遺贈した) *Protheselaus* 8051. 年代不詳.
- 21) si gildein ne veut suffre que yl soit destreint pur dette... (もしギルド組合員が借金で差押えられることを望まないならば...) *Oak Book of Southampton* i 40. 年代不詳.
- 22) il prist feynz et bleez en noun de d.(彼は自教的動産差押の名においてブナテンの毛皮と麦を手に入れた。) *YBB* Ed II x204. 1307年-1327年.
- 23) Il pooit retenir pour ses aissements le cours des fontaines et des ruissiaus(彼は泉や小川の流れを利用することができた) 1271, *Archives*. 年代不詳.
- 24) Alice n'ad rens si nun esement de pasture(A.は資産もなく、従って草地役権もない) *YBB* 20-21 Ed I 355. 1272年-1307年.
- 25) Quant une fin est engrossé em ne resortira james a bref ne a note chalanger(合意が書写された上は絶対に文書を忌避してはならない、また文書を批判してもならない) 1304年 *YBB* 32-33 Ed I 315. 1272年-1307年.
- 26) Abusion est a quider qe escriz et chartres facent e.(捺印文書や合意書が不動産権を構成すると考えるのは誤りである) *Mirror of Justices* 163. 年代不詳.

Abstract**A Study of the Medieval French Origin of the Legal Jargon of English Law (1)**

Katsuzo Hoya

When we see legal terms in English Law, we find some strangeness in them. If we are well versed in French, we feel as if we found French words, though not always genuine in form and use, in them.

In this study, I picked up 133 simple words (including compounds) out of Legal Jargon A-Z Guide, one of the Appendices of John Pritchard's *The Penguin Guide to the Law*, second edition 1985.

In this first installment, I treated the first 66 words and elucidated in what side of what language each originated. I found that Anglo-French was much oftener involved in them than has so far been elucidated. (To be continued)

Department of Foreign Languages (English)